

2019年度春季における電源 I ' の発動実績について（報告）

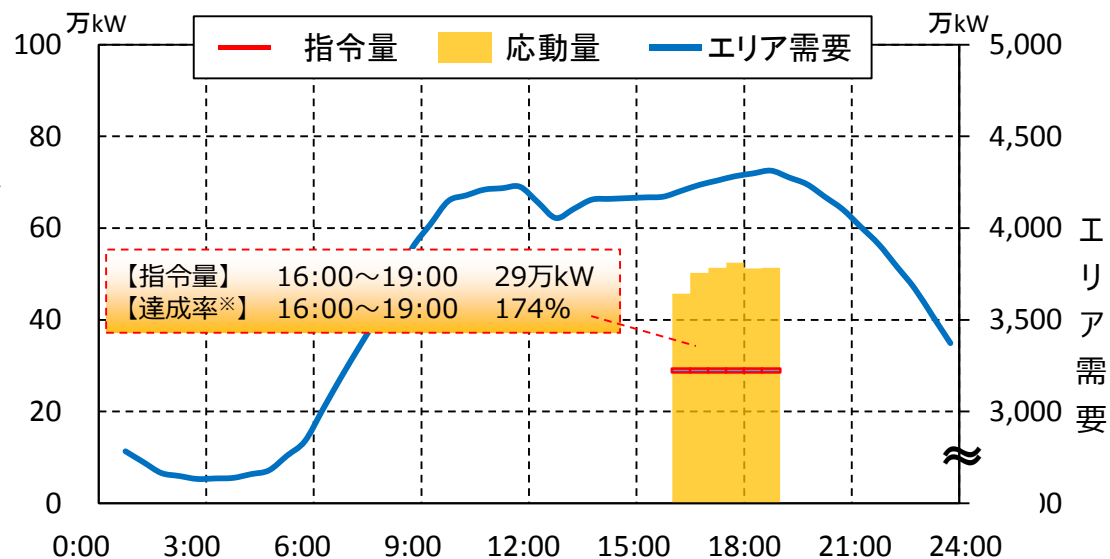
2019年7月10日

調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 事務局

- 2019年度春季における電源 I ' の発動実績について各一般送配電事業者を確認したところ、東京エリアにおいて1回の発動実績があったので、その概要について報告する。
- 4月10日（水）、東京エリアでは4月としては低気温による高需要となり、厳しい需給状況となることが懸念されたため、東京電力PGは電源 I ' を発動した。

<2019年度 春季における電源 I ' 発動実績>

エリア	発動日数	発動回数	指令対象期間		指令量
東京	1	1	4月10日（水）	16:00~19:00	29万kW



需給バランス実績（18:00~19:00）

需要	4,313万kW
供給力	4,521万kW
予備率	4.8%

- ※ 電源 I ' 発動後の需給バランス
- ※ 電源 I・IIのうち、バランス停止は無し
- ※ 広域機関指示による需給ひっ迫融通は、実施していない
- ※ 4月の平年H3需要：3,848万kW

- ※ 「達成率」は、指令量に対する応動量の比率として算出。（達成率 = 応動量 ÷ 指令量）
なお、達成率は発動期間における電力量で算出したもの。
- ※ エリア需要は、広域機関HP系統情報サービスの需要実績による。

(参考) 電源 I ' (厳気象対応) が発動される基準

- 各一般送配電事業者において厳気象対応の供給力として確保されている電源 I ' の発動基準は、各社概ねエリアの予備率が3～5%未満となるおそれがある場合とされている。

エリア	電源 I ' の発動基準
東北	当日において、予備率が5%を下回ることが想定される場合、電源 I ' 発動の検討を行い、発動について判断。
東京	自エリアで予備率が5%以下になると想定される場合に発動指令を行う。揚水の池容量も考慮し、翌日、翌々日も含めて5%以下になると想定される場合に発動指令を行う。
中部	計画段階の予備率や当日朝の需要の立ち上がりを評価した結果、火力の増出力を行っても予備率3%を下回る蓋然性が高まった場合(予備率3～5%)に、実需給の3時間前に発動指令を行う。
関西	予備率が5%程度を下回る見通しとなれば、電源 I ' の発動を検討し必要に応じて実施。
九州	当日朝の需給バランスの見直しにおいて、予備率3%未満となることが想定される場合において、電源 I ' の要件(3時間前の指令など)を勘案し、発動を判断している。

(参考) 電源 I ' の確保量と発動回数

<2017年度>

	確保量	発動回数	発動月
東北	7.4万kW	—	—
東京	59.9万kW	13回	1月,2月
中部	19.2万kW	—	—
関西	17.0万kW	—	—
九州	31.3万kW	1回	9月
合計	134.8万kW	14回	—

<2018年度>

	確保量	発動回数	発動月
東北	8.2万kW	—	—
東京	34.0万kW	4回	8月
中部	31.2万kW	—	—
関西	27.0万kW	3回	7月,1月
九州	31.8万kW	—	—
合計	132.2万kW	7回	—

<2019年度>

	確保量	発動回数	発動月
東北	15.0万kW	—	—
東京	29.7万kW	1回	4月
中部	27.7万kW	—	—
関西	98.3万kW	—	—
九州	32.3万kW	—	—
合計	203.0万kW	1回	—

- ※ 2019年度の発動回数は、7月10日現在の値
- ※ 関西確保量には「関西国際空港島に立地していることが必要な電源」を含む(2019年度)
- ※ 九州確保量には「五島地域に立地していることが必要な電源」を含む